令和８年度（2026 年度）
全国学力・学習状況調査　豊中市の結果分析

令和８年（2026 年）11 月　豊中市教育委員会


豊中市キャラクター マチカネくん

１．調査の概要について

（１）調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（２）調査実施日

- 教科に関する調査（中学校英語以外）　：令和８年（2026 年）４月 23 日（木）（調査基準日）
- 生徒質問調査、中学校英語（「話すこと」以外）　：令和８年（2026 年）４月 20 日（月）～４月 23 日（木）　＜予備日 ４月 24 日（金）＞
- 中学校英語「話すこと」　：令和８年（2026 年）４月 24 日（金）～５月 29 日（金）
- 児童質問調査　：令和８年（2026 年）４月 24 日（金）～５月８日（金）

（３）調査の対象

小学校第６学年、義務教育学校前期課程第６学年の原則として全児童　（本市立小・義務教育学校の参加児童数　3,633 人）
中学校第３学年、義務教育学校後期課程第９学年の原則として全生徒　（本市立中・義務教育学校の参加生徒数　3,048 人）

（４）調査事項

ア 教科に関する調査

- 小学校調査は、国語、算数、中学校調査は、国語、数学、英語とする。
- 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とする。
- 出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。
  ① 身に付けておかなければ後の学年等の学年内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
  ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用するカや、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- 出題形式について、記述式の問題を一定割合で出題する。英語「話すこと」に関する問題の解答は、原則として口述式とする。

イ 質問調査

- 調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査を、児童生徒の活用するICT端末等を用いたCBTで実施する。

2．調査結果の公表について

（1）文部科学省の基本方針

文部科学省は、本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえ、公表に当たっては、序列化や過度な競争につながらないように十分配慮することとしています。

（2）豊中市の基本方針

本市においては、本調査の実施趣旨にもとづき、これまでの施策の検証・改善に努め、児童生徒の豊かな学びに向けた取組みをさらにすすめていくため、分析結果の公表のあり方などについては、次のように示すこととしました。

①本調査は、自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図ることなどを目的としていることを踏まえ、教科全体の平均正答率といった一括した数値のみではなく、教科における資質・能力とその内容などの視点から設問・領域別に分類し、本市の児童生徒が学力のどの側面に改善が必要であるか、又、どの側面をより伸ばす取組みが重要であるかを明確にする。

②公表に際しては、教科に関する調査の設問・領域別の数値、児童生徒質問調査（生活習慣や学習環境等に関する質問）の数値を公表するとともに、教科に関する調査と児童生徒質問紙調査との関係を分析して、特徴的な状況等を公表する。

（3）結果の公表について

豊中市教育委員会事務局のホームページに結果概要・報告を掲載し、保護者・市民の皆さんと成果や課題の共有を図ってまいります。

● 豊中市 ｗｅｂサイト　「全国学力・学習状況調査結果」
https://www.city.toyonaka.osaka.jp/kosodate/kyo_iin/gakkodukuri/gakuryokugakusyuu/index.html

関連ホームページ

● 国立教育政策研究所 ｗｅｂサイト
「全国学力・学習状況調査　令和８年度調査」
https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/index.html

●大阪府 ｗｅｂサイト
「令和８年度　大阪府結果概要」
https://www.pref.osaka.lg.jp/o180080/shochugakko/zenrkoku/index.html